

第2学年道徳学習指導案

1 主題名 男女の人権

資料名「ちがいのちがい」

(『新編新しい社会 公民』(東京書籍)、『かがやき』「みきのふとした疑問」を参考に編集)

内容項目 2-(4) 男女は、互いに異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重する。

2 主題設定の理由

今日、男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、男女が平等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会の実現が求められている。人間の社会が男性と女性とによって成り立ち、家庭においても職場においても互いに協力することによって望ましい社会生活が営まれるわけであるが、それは独立した人間それぞれの個性が尊重され、互いに生かされ合うことによって可能となる。男女平等、男女共同参画社会の実現のためには、男女の人権の問題への関心を育て、健全な異性観や、男女平等観を養うことは必要であると考えられる。

中学生の時期は、一般に異性に対する関心は強くなるが、生徒の心身の発達には個人差が大きく、学年が上がるにつれ、異性に対する感情や考え方にも大きな差異が見られる。他者と自分の違いに気付くものの、どのように対応すればよいのか戸惑う生徒が多い。

本学級の生徒は、男女ともに積極的に発言する生徒が多く、明るい雰囲気がある。よくお互いに何でも言える生徒が多いが、相手の立場になって話したり、考えたりすることが難しい生徒もいる。生徒会選挙を前に、「生徒会長は男子のほうがいい」といった発言があった。日常生活の中で、何気なく見過ごしたり、当たり前のように感じたりしがちなことに焦点を当て、男女の人権に係る気付きや認識を促進し、男女が協力し、よりよい社会を築き上げようとする意欲や態度を育成することは、大変意義深いと考えられる。

身近にある様々な「ちがい」や世の中にあるいろいろな差別や偏見に関心をもたせたい。そして、人権尊重の意識を育て、よりよい人間関係を築くために差別や偏見が大きな障害となっていることを考えさせたい。

そこでまず、今まで男(女)に生まれてよかった、いやだったと思ったことについて出させる。その際、男女平等の観点からおかしいと思うことに注目させ、本時のめあてを確認する。次に、「ちがいのちがい」に取り組みさせる。その際、個人で「あっていいちがい」と「あってはならないちがい」について、分類し、グループ、全体で意見交換をする。その際、なぜそう思ったのかの理由を言うことを大切にさせる。さらに、皆がよりよい社会を創っていくために、大切にしなければならないこと考え、交流する。最後に、振り返りを行う。その際、自分の意見と他者の意見を比較して今の考えを書いたり、男女が自分らしく社会に参画するために、必要なことは何かを書いたりするように助言する。

3 本時のねらい

- ・身近にある様々な「ちがい」や世の中にあるいろいろな差別や偏見に関心をもつことができる。
- ・男女が自分らしく社会に参画できるように必要なことを考え、よりよい人間関係を築くことができるようにする。

4 準備

- ・ワークシート
- ・カード

5 本時の展開

段階	学習活動・内容	教師の支援	形態	配時
導入	<p>1 今までの事を振り返り、めあてをつかむ。</p> <p>(1) 今まで男(女)に生まれてよかった、いやだったと思ったことについて出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女なんだから、手伝いなさい。 ・男の子はめめめそしない。 <p>(2) めあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今までの経験や聞いた事があることを想起させ、グループで出し合わせ、自由に発言できる雰囲気をつくる。 ○ グループで多かったほうから発表させる。出てきた意見で、自分に当てはまる生徒には挙手をさせ、身近に起きていることをつかませる。 	一斉 ／ 学級集団	10
	世の中にある様々な「ちがい」について考えよう。			
展開前段	<p>2 「ちがいのちがい」の項目から、「あってよいちがい」「あってはならないちがい」「どちらともいえない」に分けて理由を交流する。</p> <p>(1) 個人で分類し、ワークシートに考えを書く。</p> <p>(2) カードを操作しながらグループで交流する。</p> <p>(3) 全体で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あってはならないちがい」性別、生まれ、身体、人種 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後の社会科(公民)の学習につながるができるように、教科書の内容を参考に質問項目を選考した。 ○ 理由の欄に書くことができない生徒には、机間指導で「なぜ、そう思ったの?」と問いかけ考えを引き出すようにする。 ○ グループでの話し合いでは、カードを使い、○、×、?で分類させ、交流が活発になるようにする。 ○ 全体交流では、代表に発表させ、その理由をキーワードで示しわかりやすく板書する。 	個↓グループ↓学級集団	15
展開後段	<p>3 どのように生きていけば、共によりよく生きていくことができるのかを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性別ではなく、自分らしく 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 導入を振り返り、「男らしく・女らしくではなく、・・・」と言う短文をあたえ、「・・・」に当てはまる言葉を考えさせる。 ○ 個人の考えをグループで交流し、学級で交流する。 	個グループ学級集団	15
終末	<p>4 授業のまとめをする。</p> <p>(1) 授業を振り返り、教師の話を聞く。</p> <p>(2) 授業後の感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今まで出てきた社会にあるいろいろな差別や偏見について振り返り、今後も様々なことに興味をもち続けることができるように話をする。 ○ 感想には、グループや全体に出てきた意見と自分の意見を比較したり、学習を通して考えたことを書くように促す。 	学級集団／個／一斉	10

6 指導の実際

(1) 導入の段階

まず、めあてにつなぐために、今まで男や女に生まれてよかった、いやだったと思ったことについて出し合った。その際、意見を出し合いやすいようにするために、自分の経験だけでなく、聞いたことがあることも含めるようにした。生徒からは、次のようなことが出された。

【よかった】	【いやだった】
<ul style="list-style-type: none"> ・女子は、おしゃべりが楽しい。 ・女子のほうが、おしゃれができる。 ・男子のほうが力が強い。足が速い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・女子だから早く帰ってくるように言われる。 ・男だからしっかりしなさいと言われた。 ・男子のほうがよく怒られる。 ・女子のほうが手伝えと言われる。

グループで交流した後、学級全体に出した時、これがあてはまると思ったら挙手をするようにして、様々な「ちがい」が身近に起きていることを実感させる。

(2) 展開前段の段階

「ちがいのちがい」の項目は、公民の教科書にあるものを使い、今後の社会科の学習につなぐことができるようにする。個人で考えるときは、「あっていいちがい」と「あってはならないちがい」「どちらともいえない」について、学習プリントに書き込みながら考えるようにする。その後、グループで意見交換をする。その際、各質問項目のカードを3つに分類しながら机の上に置き、なぜそう思ったのかの理由を言うことを大切にさせる。

【生徒の反応】			
生徒の発言で多かったのは、次の通りであった。			
質問項目		生徒の反応	
1	男女の結婚年齢	×	男が働くとなっている。女性の早期出産のほうが問題
2	女性専用車はある	×	男性が悪い事をする決めつけている。
3	出席番号が男女別	×	男性が上ということだろうか
4	上級生と下級生	?	先輩に教えてもらうから。一緒にしてもいいのでは？
5	お風呂に入る順番	×	みんなが家族のために役割を果たしている。入れる人から。
6	管理職	×	実力を認めてほしい。
7	卒業後の進路	○	自分にあう進路を選ぶことが大切
8	血液型	×	人は4パターンに分けられない。決めつけてはいけない。
9	長距離走の走る距離	×	男子は体力があると決めつけないでほしい。
10	片づけ	×	男女関係なく片づけるべき

それぞれの項目で理由をあげて意見を交流する中で、今まで疑問にも思わなかったところにも気付くことができた。特にNo. 1については、「生活の基盤をつくるのを男性と考え、男性は高校卒業まで待った年齢にしているのではないか。」や、保健体育で学んだことを生かし、早期結婚の問題を考え、女性の年齢のほうをあげるべきではないかと発展し、活発に交流していた。No. 5 については、「そんな家はもうないのでは？」と共働きが増えてきたことを捉え、入れる人から入るべきであると言っていた。No. 6 については、「ドラマで社長や重役は男の人が多だね」「それは変だ」と、今まで不思議とも思わずにドラマを見ていたことに気づいていた。No. 9 については、男子にも女子より体が小さかったり、体力がなかったりする人もいることをあげ、男女差別の問題で、必ず女子が弱いや不利と思うことも間違いであることを指摘していた。

(3) 展開後段の段階

皆が共によりよく生きていくことができるのかを考え、交流した。まずは、個人で考え、グループで交流し、学級全体に出しあった。その際、導入に振り返り、「男らしく・女らし

くではなく、・・・」と言う短文をあたえ、「・・・」に当てはまる言葉を考えさせた。生徒たちから出た内容は次のとおりである。

「男らしく・女らしくではなく、互いを思いやって」
「男らしく・女らしくではなく、人間らしく」
「男らしく・女らしくではなく、みんな一緒」
「男らしく・女らしくではなく、自分らしく」
「男らしく・女らしくではなく、差別のない社会を」

(4) 終末の段階

本時の振り返りを行った。その際、今まで出てきた社会にあるいろいろな差別や偏見について振り返り、今後も様々なことに関心を持ち続けることができるように話をした。感想を書く際には、自分の意見と他者の意見を比較して今の考えを書いたり、男女が自分らしく社会を創っていくために、必要なことは何かを書くように助言した。次は、生徒の感想の一部である。

- 「違い」にもたくさんの「違い」があることを知りました。男女がいて社会は成り立っているのだから、互いのよさを認め合い、支え合って生活できるようにしていきたい。男女がすべて同じである必要はないと思う。みんなの意見にもあったように、まずは、学校生活から男女の個性を生かすことができるようにしていきたい。
- 「ちがいが」と一言と言っても、「ちがいが」にはいろいろなちがいがあがる。「個人の特徴のちがいの良さ」もあれば、「性別や身体でのちがいが」での差別はいけぬ。自分は絶対に差別をしないようにしたい。
- 人には生まれもったものがあり、それは個性だからいいと思うが、それを使って差別することは悪いと思った。本人の実力を見ずにどうにもできないことだけで差別することは許されぬ。これから差別かどうか見極める目をもつことが大切だと思った。
- 性別の違いで判断して決めつけるのは良くないと思いました。そういう違いがあるから、一人ひとりの個性が生まれると思いました。しかし、「あつていいちがいが」と「あつてはいけぬちがいが」について考えてみると、個性の違いによって差別が生まれるのはあつてはいけぬと思ったので、「ちがいが」を皆が認め合えるように私自身も努力していきたいです。

7 成果と課題

本時の授業を考察し、成果と課題をまとめる。(○成果 ●課題)

- 生徒はあつていい違いとあつてはならない違いを考えたり、自分と意見が違ふ生徒と意見交流をしたりすることで、人権感覚を養うことができた。
- グループで交流活動をしたことで、意見が言いやすく、自分があつてもいいちがいが思つていたことが、よくないことだつたと気づけた生徒がいた。
- 違いの例を事前に学年で協議してついたので、生徒たちがそれぞれの違いについて理由を考え、グループでの話し合いの際も自分の意見を積極的に述べている生徒が多かつた。
- ちがいを感ずるさまざまな例について考えさせることによって、日頃の生活の中に当たり前のようになつて差別につながつてつることに気づき、自分の気づきを大事にしななければならないことに気づいてつた。
- 「性別」によるものについて、「どちらともいえない」と答えた生徒は多く、グループ、全体の交流で「なるほど」と気づいてつた。日頃から、様々な現状について考え、気づくことができる人権感覚を育成しななければならない。
- 展開後段のキーワードで表現する活動では、広がりをもたせることができなかつた。男女の違いによる困つた状況に気づいてつた生徒が多かつたことも要因としてあげられる。今後も継続して男女のよさを認め、よりよく社会を創つていくことについて、社会科の公民の分野でも押さえていきたい。

「ちがいのちがい」 番 氏名 _____

(1) 10枚のカードを見て、あなたの考えを記入しましょう。

○…あってよいちがい ×…あってはならないちがい ?…どちらともいえない

	内 容	○×?	理由を記入しましょう。
1	女性は16歳で結婚できるが、男性は18歳にならないと結婚できない。		
2	女性専用車はあるが、男性専用車はない。		
3	N中学校の出席番号はすべて男子が先で、女子が後になっている。		
4	野球部では、上級生はグラウンドの整備をしないが、下級生はいつも整備をしなくてはならない。		
5	Aさんの家では、必ず父親が先にお風呂に入る。Bくんの家では、順番はない。		
6	D会社は、管理職は男の人がほとんどである。E会社は、試験に受ければ、だれでも管理職になれる。		
7	Gくんは、高校卒業後はガソリンスタンドで働いているが、Hさんは大学に進学する。		
8	血液型でA型の田中さんには仕事を任せるが、B型の木下くんには任せることができない。		
9	X学校では、長距離走大会で男子は3km、女子は2km走る。		
10	母親は、妹には片づけをするように言うが、兄には言わず、母親が片づけてやる。		

(2) グループでお互いの考えを交流しましょう。

①グループで違う意見になったところはその理由を交流しましょう。

②「あってはならない」「どちらともいえない」の項目は、その理由をグループで話し合しましょう。

(3) グループの代表者は、「あってはならない」とした項目・理由を学級全体に発表しましょう。

※グループ、学級の人意見で参考になるものは、色ペンで学習プリントに書き込みましょう。